

ほそろぎばんどうやまいせき
1. 細呂木阪東山遺跡

所在地：あわら市細呂木阪東山
調査原因：県営経営体育成基盤整備（ほ場）
調査期間：平成26年7月1日～12月26日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：3,580 m²
時代：古墳、奈良・平安



位置図(S=1/50,000)

調査の概要 細呂木阪東山遺跡は、北潟湖の東側、観音川河口近くの山裾に沿って、広く展開していると想定されます。周辺の地形は、調査箇所の北側に山が存在し、南側に観音川が流れています。遺跡の変遷としては、古墳が築かれた時期、奈良・平安時代になって川辺のおマツリが執り行われた時期、塩づくりを行っていた時期を考えています。

遺構 今回の調査で確認した遺構は、掘立柱建物2棟、河川2条、ピット約100基、製塩炉1基、礫の集積です。河川は、調査区北側の山裾に沿って2条発見しました。河川の形状や幅はいずれも不定形であり、自然に形成されたものと考えています。北側河川では、古墳時代後期の遺物が多く含まれ、奈良・平安時代の遺物も若干含まれていました。南側河川では、奈良・平安時代の遺物が中心となって出土し、製塩炉を1基検出しました。製塩炉は10～50 cm程度の礫を敷き並べたもので、長方形のものが2基、「くの字状」に配置されていました。製塩炉は、河川が埋没した後に作られていました。時期は、形態や出土遺物から奈良・平安時代と考えています。また、調査区北側では約25m×4mの範囲で多量の礫群の広がりを見出しています。礫群は、被熱しており、製塩炉で使用した礫を廃棄した可能性があります。礫と一緒に奈良・平安時代の遺物が出土していることから、礫の廃棄は、奈良・平安時代に行われたと考えています。

遺物 出土遺物は、古墳時代の土師器、須恵器、石製品、奈良・平安時代の土師器、須恵器、木製品、石製品を検出しました。古墳時代の遺物は、副葬品として墓に納められる種類の土器や管玉が、河川や包含層から検出されました。調査区の北側にかけて古墳が存在し、奈良・平安時代の開発で壊され、その副葬品が流れ込んだものと考えています。奈良・平安時代の遺物のうち、特徴的なものとしては、「津家」の墨書が認められる稜椀、香炉形土器、六器を模した土師器、斎串があります。それらの遺物の存在から、公的施設や宗教施設の存在が想定されます。また、河川からは須恵器の完形品が一定量認められ、それは、おマツリなどの行為に伴う意図的な廃棄と考えられます。

まとめ 細呂木阪東山遺跡では、5～6世紀代の古墳群が存在していたこと、宗教施設によって川辺のおマツリや塩づくりが行われていたこと、北潟湖の交易に関する公的な施設があったことを明らかにしました。
(白川 綾)



写真1 河川遺物出土状況（西から）



写真3 掘立柱建物出土状況（北から）



写真2 河川遺物出土状況（南から）

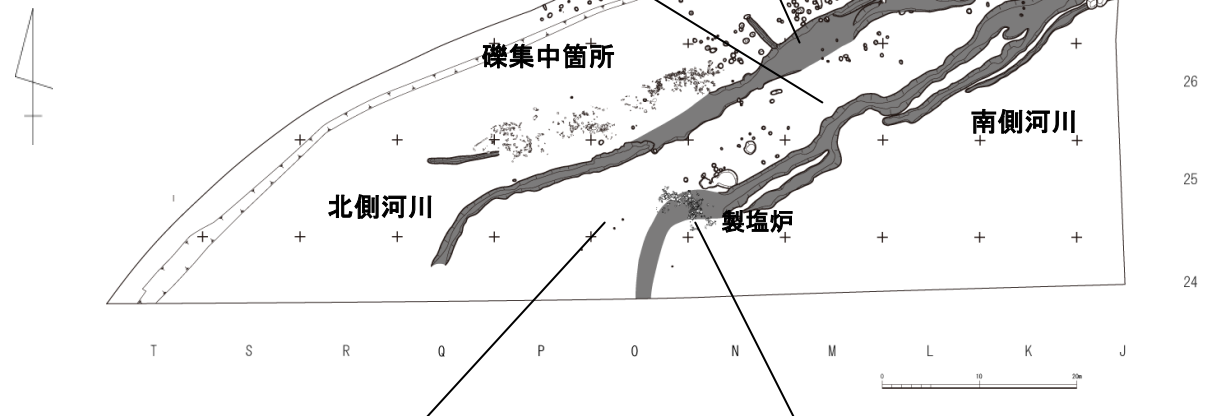


写真4 土錘出土状況（南から）



写真5 製塩炉検出状況（南東から）